

札幌市の救急隊が対応した院外心停止の 患者さんまたはご家族の方へ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られる記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] ラリングルチューブの有用性についての検討

[研究機関] 北海道大学病院先進急性期医療センター

[研究責任者] 早川 峰司（先進急性期医療センター・助教）

[研究の目的]

現在、日本国内では、院外の心停止患者に対する蘇生処置の一環として、救急救命士により、さまざまな気道確保器具が用いられています。札幌市では、近年、ラリングルマスクが基本的な気道確保器具として用いられていました。本年度、札幌市消防局では、ラリングルチューブの導入が検討されていますが、ラリングルマスクとラリングルチューブの効果に関する検討はこれまでに報告されていません。このため、今回、札幌市消防局がラリングルチューブの試用を行うことにあわせて、従来使用していたラリングルマスクとの効果比較を行います。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

平成 24 年 5 月（承認日）から平成 24 年 12 月 31 日の間に札幌市の救急隊が対応した院外心停止の患者さん

●利用する検体およびカルテ情報

年齢、性別、心停止の原因、時間経過、気道確保器具の挿入試行回数、気道確保器具の種類、換気状態、予後

[個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[問い合わせ先]

北海道札幌市北 14 条西 5 丁目

北海道大学病院先進急性期医療センター

担当医師 早川 峰司

電話 011-706-7377 FAX 011-706-7378